

No	感染症(PT)	出典	概要
396	細菌感染	ABC Newsletter 2007 年9月21日	FDAは輸血前の血小板中の細菌汚染を検出するための初めての迅速検査を販売承認した。Verax Biomedical Inc 製造のPlatelet Pan Genera Detection Test Systemは病院の輸血部で使用するための使い捨て検査機器である。
397	細菌感染	American Society for Microbiology 107th Annual Meeting; L-004 2007年5月21-25日	日本の三次医療施設である自治医科大学病院(病床数1082床)において、2006年4月1日～8月31日に、患者28名の血液培養から <i>Bacillus cereus</i> が検出された。リネン類の汚染と末梢静脈ラインの不適切な取り扱いが原因であると考えられた。一時的にリネン類のオートクレーブ処理を行い、洗濯機を洗浄し、末梢静脈ライン管理について職員の教育を行ったことで、 <i>B. cereus</i> 陽性血液培養はその後検出されなかった。
398	細菌感染	Ciencia Rural 2007; 37: 171-174	ブラジルRio Grande do Sulの11農場から集めた乳腺炎疑いの雌牛のミルク188検体で細菌学的検査を行った。黄色ブドウ球菌が最も高頻度に分離され、次に <i>Corynebacterium</i> spなど通常の原因菌であった。ある農場の32検体中6例では通常の原因菌は検出されず、 <i>Arcobacter</i> sppが分離され、これらの検体は乳腺炎の症状のないウシのミルクであった。ブラジルで雌牛のミルク中に微生物が検出された初めての報告である。
399	細菌感染	Clin Infect Dis 2007; 44: 1408-1414	2005年3月、米国ネブラスカ州の病院で複数の病室において、無針静注カテーテルコネクタールバルブが導入された時期に血流感染の急激な増加が見られた。一次血流感染について調査を行ったところ、一次血流感染と無針静注カテーテルコネクタールバルブの使用との間に有意な関連性が認められた。細菌培養を行った37個のバルブのうち24.3%から微生物が検出され、主にコアグラゼ陰性ブドウ球菌であった。無針コネクタールバルブの評価には市場導入前に感染リスクの査定を含めるべきである。
400	細菌感染	http://as.baikal.tv/news/new.html?newsid=200612306	ロシア、イルクーツクの農場経営者の話によると、ここ数ヶ月で数千頭の動物が敗血症で死亡したとのことである。感染はこの地方全域に拡大した。獣医は住民の健康状態を懸念しており、認可を受けていない市場で精肉を購入しないように呼びかけている。死んだウサギは予防接種をしていなかった。
401	細菌感染	Int J Hyg Environ- Health 2006; 209: 553-556	イタリアAnconaの病棟で入院中に少なくとも1回の38℃以上の発熱をした患者4名から、同じ抗菌剤感受性を持つ緑膿菌が分離されたため、調査を行った。ヘパリンと生理食塩水の混合液から緑膿菌が分離され、患者の血液検体から分離された緑膿菌と同一のPFGEパターンを示した。消毒液、生理食塩水、密閉されたヘパリンバイアルは全て陰性であり、混合されたヘパリンと生理食塩水を数日間使用したことによるカテーテル関連血流感染であることが明らかとなった。
402	細菌感染	J Eur Acad Dermatol Venereol 2007; 21: 818-821	2000-2004年にバリの性病クリニックに紹介された患者におけるキノロン耐性淋菌(QRNG)感染率を評価した。淋菌症例数は2000年(41例)から2002年(12例)に減少したが、2004年には60例となり増加に転じた。QRNG感染率は2000-2002年に1.3%、2003年に22.7%、2004年には30.2%であった。QRNG感染率は男性とセックスをする男性やHIV感染者で高かった。
403	細菌感染	J Support Oncol 2007; 5: 273-278	中心静脈カテーテルを有する患者246名を無作為に、ヘパリンコートカテーテルで生理食塩水を注入する群(ヘパリンコート群)または非コートカテーテルで低用量の未分画ヘパリンを注入する群(対照群)に割り当て、無作為対照試験を行った。カテーテル関連血流感染はヘパリンコート群では2.5%(3/120カテーテル)、対照群では9.1%(11/120カテーテル)で起こり、有意な差が見られた。出血は両群で差がなかった。ヘパリンコートカテーテルの使用はカテーテル関連血流感染を防ぐのに安全かつ有効な方法である。
404	細菌感染	N Engl J Med 2007; 356: 2381-2387	ペルーに旅行した後、熱および脾腫を呈し、 <i>Bartonella bacilliformis</i> (に似た微生物による菌血症となった患者の血液検体を培養し、分離菌を調べた。遺伝子解析により、この分離菌は <i>B. clarridgeiae</i> に近縁で、 <i>B. bacilliformis</i> に遠縁の新種であることが明らかになり、 <i>B. rochalimae</i> と名づけられた。この分離菌を赤毛ザルに接種したところ、3日目に発熱し、7日目にヘマトクリット値が減少し、14日目に菌血症となった。
405	細菌感染	Nephrol Dial Transplant 2007; 22: 471-476	血液透析ユニットで中心静脈透析カテーテルのロッキング液として使用していたヘパリン10000 U/mlを4%クエン酸ナトリウムに切り替え、前後1年間の結果を分析した。カテーテル交換率、INFアッセイ干渉率、rt-PA有効率、菌血症率および年間コストについて調べた。カテーテル交換率、rt-PA有効率および菌血症率は両群で有意差は無く、クエン酸ナトリウムの薬物経済学的利点が支持された。更に、クエン酸ロックはヘパリン関連出血合併症がなく、INRアッセイの信頼性を改善した。
406	細菌感染	Nephrol Dial Transplant 2007; 22: 477-483	4%クエン酸とヘパリンロッキングの臨床的効果、安全性およびコストをprospectiveに比較検討した(クエン酸群: 患者129名、177カテーテル、ヘパリン群: 患者121名、176カテーテル)。中心静脈カテーテル交換率、血栓溶解剤(TPA)使用および関連入院期間について、クエン酸群はヘパリン群と比較して同等かもしくはより優れた結果を示した。カテーテル関連細菌菌血症率はクエン酸群の方が有意に低かった。クエン酸は安全でより安価な代替品である。